

令和5年度 社会科

教科	社会	科目	日本史探究	単位数	3	年次/コース	高校2年生/特進文系
使用教科書	詳説日本史(山川出版社)						
副教材など	詳説日本史 10分間テスト(山川出版社)、改訂版日本史用語集(山川出版社)						

1. 学習の到達目標

<p>●科目について                  社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とする。</p> <p>●コンピテンシーについて                  授業を通じて知識・技能の習得はもちろんのこと、知識・技能の活用や他者と協働して物事をやりとげる力を育成する。また、歴史事象に対して「なぜ？」と疑うマインドを持ち、俯瞰して物事を見る目を養う。</p>
---

2. 学習方法について

<p>●授業中において                  様々な史資料に触れ、他者との意見交換を通じて、歴史上の出来事の因果関係を深く理解することを意識する。また、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題の解決法を探れるような俯瞰的なものの見方を身に付ける。</p> <p>●家庭学習において                  課題の意図を理解し、主体的に学習することを心掛ける。また、歴史用語は単純暗記に留まらず、必ず因果関係を理解するように努める。</p>
---

3. 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	①：知識・技能	②：思考・判断・表現	③：主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評 価 方 法	単元テスト 定期考査	単元テスト 定期考査	日々の授業への取り組み状況 日常の課題等の取り組み状況 パフォーマンス課題  上記を中心に「調整力」と「持続力」の二軸を総合的に判断し、評価する。

上に示す観点・評価方法に基づいて、各観点で評価し、学期末に当該学期の観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。また、学年末に年度を通しての観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。

4. 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点			単元（題材）の評価規準	評価方法
			①	②	③		
1 学 期	第1章 日本文化のあけぼの	1 文化の始まり	○	○	○	①人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。②打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、竪穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気づく。	「3. 学習評価」に示した観点と評価方法によって評価
		2 農耕社会の成立	○	○	○	①大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて、弥生文化の形成を考察する。②集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連づけて考察する。③原始社会の特色についての考察を踏まえ、時代を通観する問いを表現する。	
	第2章 古墳と大和政権	1 古墳文化の展開	○	○	○	①地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。②ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。③古墳時代後期から終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。	
		2 飛鳥の朝廷	○	○	○	①ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。②飛鳥文化に世界の諸地域の文化の影響がみられることを理解する。	
	第3章 律令国家の形成	1 律令国家への道	○	○	○	①律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。②律令にもとづく国内統治体制について理解する。	
		2 平城京の時代	○	○	○	①律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。②平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。	
		3 律令国家の文化	○	○	○	①律令国家の成立期に当たる白鳳文化の形成過程について考察する。②天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。	
		4 律令国家の変容	○	○	○	①平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令	

					体制の変質を考察する。②東アジアとの関係を踏まえて、唐風文化である弘仁・貞観文化を理解する。	
	第4章 貴族政治の展開	1 摂関政治	○	○	○	①藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。②日本と東アジアとの関係において、民間の貿易や交流が中心となったことをとらえる。
		2 国風文化	○	○	○	①大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。 ②摂関政治の在り方と文化の展開に、どのような関係があるかを考察する。
		3 地方政治の展開と武士	○	○	○	①律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。②地方の反乱やその鎮圧など、武士の成長過程について、源氏などを例にとって考察する。
	第5章 院政と武士の躍進	1 院政の始まり	○	○	○	①院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。②外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。
		2 院政と平氏政権	○	○	○	①政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。②古代から中世への変化について考察し、時代を通観する間いを表現する。
2 学 期	第6章 武家政権の成立	1 鎌倉幕府の成立	○	○	○	①鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。②鎌倉幕府の成立時期をめぐる諸説に関して、それぞれの根拠を明確にして考察する。
		2 武士の社会	○	○	○	①承久の乱にともなう公武関係の変化に着目して、將軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。②武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。
		3 モンゴル襲来と幕府の衰退	○	○	○	①モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを理解する。②非御

		4 鎌倉文化	○	○	○	<p>家人に対する権限拡大など、幕府勢力が西国に浸透したことの意義を考察する。</p> <p>①庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。</p> <p>②伝統的な公家文化の世界で、有職故実・古典研究などの学問が進展した背景を考察する。</p>
	第7章 武家社会の成長	1 室町幕府の成立	○	○	○	<p>①南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。②琉球・蝦夷ヶ島を含む東アジアとの交流が中世日本にもたらした影響について理解する。</p>
		2 幕府の衰退と庶民の台頭	○	○	○	<p>①庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。②諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。</p>
		3 室町文化	○	○	○	<p>①武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化および、大陸文化と伝統文化の関わりについて理解する。②庶民文化の萌芽や、応仁の乱を契機とした文化の地方伝播、戦国大名の保護による文化の地方普及を理解する。</p>
		4 戦国大名の登場	○	○	○	<p>①応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。</p>
3 学 期	第8章 近世の幕開け	1 織豊政権	○	○	○	<p>①大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。②織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。</p>
		2 桃山文化	○	○	○	<p>①新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。②中世から近世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。</p>
	第9章 幕藩体制の成立と展開	1 幕藩体制の成立	○	○	○	<p>①江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。②江戸幕府の鎖国政策について、単なる対外貿易の遮断ではないことを理解し、鎖国後の貿易関係の在り方も含めてその影響と歴史的意義について考察す</p>

		2 幕藩社会の構造	○	○	○	る。 ①幕藩体制の確立期の経済・社会を、兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。②被支配身分の特質や、周縁部分に生きる人々の社会的役割について理解する。	
		3 幕政の安定	○	○	○	①17世紀後半から18世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。②諸藩における政治の安定化や刷新について、その特色を理解する。	
		4 経済の発展	○	○	○	①幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。②全国市場の確立や都市の発達で商品流通が拡大し、各地で風土に応じた特産物が生まれたことを理解する。	
		5 元禄文化	○	○	○	①経済の発展と関連して町人文化が形成されたことについて、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。②儒学の特色を理解し、その発達が他の学問に与えた影響を考察する。	